

「北極圏旅行記 2017 夏 (23)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋
～7/31 ハドゥセル島 一周 (1)～



メルブでは「メルブ・アパートメント」という宿舎に泊った。予約のページでは写真のようなテラスがあり、森の中の静かな一軒家かと思っていた。しかし実際は国道に面した普通のアパートで、部屋も平凡、バストイレも共用で、少しがっかりした。しかも、到着しても係の人は誰もいなくて、間違えて2回の普通の民家に行ってしまう、驚いたおばあさんから「宿は1階ですよ」と言われてしまった。どうも、今回の旅行ではこういうことが多い。宿のオーナーに連絡をして、やっと来てくれたと思ったら、「現金払いしかできない」と言われた。仕方なくお札で払ったら、今度は「お釣りがない」という。結局、何クローネか多く支払わされた。少々気分が悪い。



この宿舎は、キッチンだけは広くて使いやすい。目の前が「RANA1000」という大きなスーパーなので、

食材を買うのも便利なのだが、この日は土曜日で早じまいだった。仕方なく、日本から持参のカレーと「サトウのごはん」、ピザトースト、それに日本酒の夕食となった。しかしまあ、これが非常においしかった。

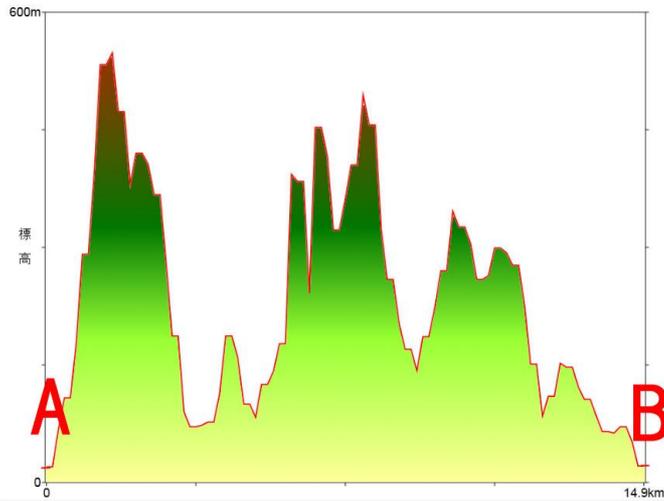


この日は、ノルウェーのメルブから、スウェーデンのアビスコまでの旅程である。地図のように Melbu (メルブ) は Hadseløya (ハドゥセル島) という島(地図の→)にある。○印は、昨日出発した Moskenes (モスケネス) の位置である。



上図は、ハドゥセル島の地形図である。大きな街はなく、北側の①Stokmarknes (ストクマークネス) と南側の②Melbu (メルブ) に人口が集中している。他の島とを結ぶ橋は、①のストクマークネスにしかない。地形図を見る限り、この島にフィヨルドと呼べる地形は見当たらない。しかし、島の北部の地形は、複雑で非常に起伏に富んでいる。4本の山脈とそれに挟まれた3本の谷が存在する。明らかに氷食地形で、も

う少し標高が低ければ、海水が浸入してフィヨルドになっていたはずである。遠い将来、温暖化による陸氷の融解や、海水温上昇による海水そのものの膨張で、海進が激しくなれば、この島にもいくつものフィヨルドが形成されるだろう。



上図は前ページの地形図のA－B間の起伏断面図である。高さは強調してある。A－B間約15km、最高標高点は600mに満たないが、かなり起伏に富んだ地形とわかる。

昨日は地図の①から②へ時計回りに来た。この日は②から①へ戻る時に、やはり時計回りで行くことにした。そうすれば島を一周することになるし、北側の氷食地形も観察できる可能性がある。



メルブは小さな街だが、この島では2番目に大きな街だ。バイパス線が開通するまでは、かつてはこの道もE10号線の一部で、夏にはフェリーに載るための自動車やトラックで渋滞していたそうだ。今はそんな賑わいは全く感じない。日曜日の朝ということもあっただろうが、ちょっと落ちぶれた田舎町という雰囲気だった。



市街地を抜けて5分も走ると、もう農村の風景になる。まだなだらかではあるが、背後に岩山も迫ってきた。草原に建つノルウェーの民家は美しい。



気候的に畑作は困難で、ほとんどは牧畜を営む農家だった。牛は稀で、馬と羊をよく見かけた。



島の西端が近づくとつれ、右側の崖が急峻さを増してきた。左側はすぐに海なので、農家は崖と海に挟まれた、わずかな草原で畜産を営んでいる。特に冬は厳しい仕事になるだろう。